ご参考資料　2026年10月6日

投資環境の見通し（2026年10月）

中銀アセットマネジメント

国内株式

もみ合い

株価上昇要因
堅調な企業業績 世界的なインフレ鎮静化
株価下落要因
企業業績の悪化 長期金利の上昇



1か月の予想レンジ　日経平均株価：60,000円～75,000円

国内株式市場は、底堅くもみ合う展開が予想されます。好調な業績見通しの割安株への資金流入は継続すると見込まれます。また、過剰投資や競争激化懸念から不安定な値動きが続いていたＡＩ（人工知能）関連株などは、夏場以降大きく調整が進んだことで、2026年7-9月期の決算発表を控え、業績を見極める動きが強まることから、当面は底堅くもみ合う動きに移行すると見込まれます。

国内金利

上昇基調

金利上昇要因 （債券価格低下要因）
インフレ圧力の高まり 日本の財政悪化
金利低下要因 （債券価格上昇要因）
世界経済の減速 日本経済の悪化



1か月の予想レンジ　日本10年国債利回り：2.8%～3.3%

国内長期金利は、日銀の追加利上げ観測の高まりや、政府の拡張的な財政政策への懸念から上昇余地を模索する展開が続くと予想されます。ただし、3%を大きく上回る水準では、年金や生保などの機関投資家の債券投資需要などに支えられ、上昇ピッチは次第に緩やかになると見込まれます。

米ドル/円

もみ合い

米ドル上昇要因 （円安要因）
米景気好調維持 米利上げ観測の高まり
米ドル下落要因 （円高要因）
為替介入（円買い・ドル売り） 米利上げ観測の後退



1か月の予想レンジ　米ドル/円：153円～162円

米ドル/円は、米国のインフレ懸念を背景としたＦＲＢ（米連邦準備制度理事会）の利上げ観測がドルを下支えする一方、日銀の追加利上げ期待や円安抑制に向けた日米協調為替介入への警戒が円の支援材料となり、もみ合う展開が予想されます。

※　上記矢印は相場の方向性を示しています。

出所：QUICKのデータをもとに中銀アセットマネジメント作成

【本資料のご利用にあたっての注意事項等】

■当資料は、投資環境に関する情報提供のみを目的として、中銀アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」という。）が作成したものであり、特定の有価証券への投資を勧誘・推奨するものではありません。また、当社が設定・運用する各ファンドの投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。■当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載しているグラフ、データ等は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。■当資料に示す意見等は作成日現在のものであり、将来の市場環境の変動または運用成果を保証するものではなく、将来予告なしに変更する場合があります。■当社は当資料に含まれる情報から生じるいかなる責務（直接的、間接的を問わず）を負うものではありません。■当資料に記載されているベンチマークインデックスの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

中銀アセットマネジメント株式会社　金融商品取引業者　中国財務局（金商）第10号
加入協会　一般社団法人資産運用業協会